

平成30年度 学校評価アンケート結果・学校関係者評価の結果を踏まえた学校評価のまとめ

千葉県立松戸国際高等学校

| | 重点目標 | 具体的方策 (具体的な取組、手立て) | 評価項目・指標 (評価方法・評価基準) | 自己評価の結果 (達成状況、結果の分析) | 改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向) | 学校関係者評価の結果 (開かれた学校づくり委員会からの意見) | 学校評価の まとめ |
|------|---|--|--|--|---|--|--|
| 学校経営 | <p>1 学校がより良い組織体として機能できるよう、校務分掌や内規等の見直しを図る。</p> <p>2 保護者や地域に対して、本校の教育活動を積極的にかつ適切に発信するとともに学校への意見を正しく傾聴し、正しく分析し、改善に努める。</p> <p>3 学校評価がより効果的に機能できるよう、学校評価の実施スケジュールの見直しを図り、学校改善を進める。</p> | <p>①現行の分掌・教科・委員会等の所掌事務を調査し、統廃合を視野に入れて委員会を運営しながら、年内に新しい委員会組織案を提示する。 現行の内規の見直しを各担当部署に依頼し、前期末を目途に集約する。年内に修正案を作成し、全職員への周知を図る。</p> <p>②個人情報等に留意しながら、学校教育活動をHP等で広く周知する。 地域のお祭り等での部活動等の発表など、学校教育活動の周知を推進する。</p> <p>③年度当初に、学校評価実施に関する計画を見直し、それに沿って実施する。</p> | <p>①統廃合した委員会数。 新しい内規集の取りまとめ状況。 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>②ホームページの掲載内容と更新回数。 地域活動等への部活動等の参加状況。 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>③計画どおりに実施できたか。学校評価の結果を反映した学校改善計画の周知状況。</p> | <p>①年度当初24あった委員会を統合、廃止によって8減らし、1新設し、最終的に17委員会にする方向性を確認した。 各分掌の内規の見直し作業は今後も続けていく。</p> <p>②学校教育活動を伝えるHPを頻繁に更新している。(12月26日現在校長室日記を155回、スクールライフを74回更新中。) 保護者対象の学校評価アンケート結果によると「HPが学校の様子や生徒の活動状況を分かりやすく伝えている」という質問に対して7割以上の保護者が肯定的に回答している。 地域活動等へはダンス部が2回、書道部が1回参加した。バトン部が1月、ダンス部が2月に地域活動に参加の予定である。7月には生徒会が中心となりボランティアを募り、延べ31名が3日間の募金活動に参加した。松戸市長に直接、募金を渡すことができ、新聞にも掲載された。12月には、近隣の小学校において英語交流会を開催し、62名の生徒がボランティア活動を行った。 ③学校評価アンケートは計画通りに実施できた。</p> | <p>①今後も各委員長間で学校の課題を共有し、随時委員会を開催し、学校組織の活性化を図る。</p> <p>②HPの活用については、スクールライフの更新を一層活性化させるために、より多くの部活動顧問や授業担当者等に投稿の協力依頼をする。また、部活動紹介のページの充実を図る。 部活動の地域活動については、外部からの依頼に対しては積極的に受入れる。</p> <p>③学校評価アンケートを一層有効活用するために、実施時期や質問内容等を適宜見直す。</p> | <p>① 全体として、組織として機能している。今後もより円滑な学校運営に向けて組織の活性化を目指してほしい。</p> <p>② 生徒向け学校評価アンケートで、HPに対する評価が高くない。生徒の視点を入れたHP作成も必要ではないか。</p> <p>③ 保護者に対する学校評価アンケートの回収率がやや低い。回収率を上げる方法を検討する必要はないか。</p> | <p>① 今年、各委員会の組織改編を行った。来年度は、各委員会や分掌の会議を計画的に開催し、職員の参画意識を高め、組織の一層の活性化を図る。</p> <p>② 部活動に関するページを現在再編中である。このページを充実させる。同時に、生徒の部活動等での活躍だけでなく、日常的な様子等も「スクールライフ」のページに掲載するよう、職員に呼びかける。また、必要に応じて、HPへの記事の掲載方法等の説明会も実施する。</p> <p>③ アンケートを実施していることを知らない保護者もいるようである。HPで実施していることを周知するとともに、担任をとおして、提出への協力を一層呼びかけてもらう。</p> |
| 学習指導 | <p>1 生徒の社会力(人が人とつながり、自分が学んだ知識や身につけた技術などをより良い社会をつくるために発揮することができる)を育成することを念頭に入れた、学習指導を実践させるため、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。</p> <p>2 継続的な家庭学習・自学自習の確立に向けた支援を強化する。</p> <p>3 指導方法や教材の共有化等、より効率的で組織的な教育実践を進める。</p> <p>4 平成34年度生から実施する新学習指導要領を踏まえ、カリキュラムマネジメントの視点から、本校教育課程の編成作業を行う。</p> | <p>①年度当初に「社会力」の重要性、学習することの意義を教職員・生徒に説明するとともに、ホームページを通じて広く保護者や地域へ周知する。 また、校内研究授業・研修会を実施するとともに、日常的な管理職による授業観察とおとした指導助言、教員同士による授業見学や意見交換、動画配信システムの活用、生徒による授業評価アンケート等による振り返り等を行う。</p> <p>②年次主任・関係分掌主任等との情報交換をとおして、小テストや補習等の支援活動を行う。</p> <p>③文部科学省や県から指定された英語指導の研究内容を、教科横断的な指導改善につなげるために、若手研修育成チームを中心に再検討し、その内容を教職員に還元させる。 ④教育課程編成委員会を通じて、本校生徒が身につけてほしい資質能力や将来像(松国スキル&キャリアイメージ)を整理する。</p> | <p>①「社会力」の周知状況。 校内研究授業・研修会の実施回数とその状況。 教員との面談等による聞き取りや生徒による授業評価アンケート結果。 動画配信システムの導入状況。 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>②支援活動の状況。 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>③若手研修育成チームの検討と実践状況。 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>④松国スキル&キャリアイメージの取りまとめ状況</p> | <p>①アンケート結果によると「社会力」という言葉は生徒に広く認知はされている。 学校全体の公開授業(2日) 悉皆の研究授業(10回)の他、英語科の公開授業(2回)や、11月初旬の授業の互見の呼びかけ等、授業力向上の意識付けをすることはできた。学力向上に関する研修会を実施するには至らなかった。学校評価アンケートによると、「授業は工夫されていてわかりやすい」への肯定的な回答は約5割だった。授業評価アンケートも質問項目を精選し実施することができた。 動画配信システムを積極的に活用している教員も増えてきている。</p> <p>②自学自習については、調査対象によって、意見が分かれた。教員は約6割が否定的、1年生は7割弱が肯定的、2年生は5割強が否定的、3年生は7割強が肯定的、1・2年の保護者はほぼ半々、3年の保護者は7割強が肯定的だった。1年生は学年として自学自習を進めており、3年生は受験のためと思われる。</p> <p>③若手教員が英語公開授業に係る研修会へ出席する等、各自が課題を持ち、授業改善に取り組んでいた。</p> <p>④新教育課程作成に向けて、委員会を開催し、各教員から本校生徒に身につけさせたい資質等を集約することができた。</p> | <p>①担当する委員会を中心となり、授業力向上のための研修会(授業の互見週間、研究授業、研究協議会等)を具体的に企画・運営する。 管理職による授業観察を引き続き行うとともに、フィードバックも確実に行う。 動画配信システムの活用等について、広く呼びかけ等を行う。</p> <p>②来年度の1年生に対しては、主任等と連携して、入学直後から家庭学習の重要性を生徒に促す。2年生は今年度の流れを意識させ、3年生は進路実現に向けた必要な自学自習が確実にできるようにする。また、全学年をとおして自学自習をするための時間の確保等にも努める。</p> <p>③引き続き、若手教員は各自の課題を設定し、授業力向上に向けて、自主的に研修に努めるものとする。</p> <p>④本校生徒に求める資質を身につけさせるための教育課程の作成に取り掛かる。各科目での目標を明確にするとともに、来年度からの「総合的な探求の時間」の具体的な実施方法、内容について検討を進める。</p> | <p>① 生徒向け学校評価アンケートにおいて「授業は工夫されていてわかりやすい」に対する評価が良くない。授業も拝見したが、教員によって生徒の姿勢の差が見られる。ALTの活用方法も含め、授業改善に一層取り組んで欲しい。</p> <p>② 自学自習の習慣化を更に目指してほしい。</p> <p>③ 特になし</p> <p>④ 特になし</p> | <p>① 今年度も管理職による授業観察を実施し、研究授業や教員間による授業の互見週間を設定することにより、授業改善に努めている。来年度は、今年度の取組みを一層充実させるとともに、職員研修日を設定し、更なる授業改善に努める。</p> <p>② 年次単位での取組みを共有しながら、自学自習の習慣化を目指す。</p> <p>③ 初任者研修、フォローアップ研修等の更なる充実を図る。</p> <p>④ 本校が目指す生徒像を明確にし、それを実現するために、新学習指導要領に向けて新教育課程の編成に取り組む。</p> |

| | 重点目標 | 具体的方策 (具体的な取組、手立て) | 評価項目・指標 (評価方法・評価基準) | 自己評価の結果 (達成状況、結果の分析) | 改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向) | 学校関係者評価の結果 (開かれた学校づくり委員会からの意見) | 学校評価の まとめ |
|--------|--|--|---|---|--|--|---|
| 生徒指導 | <p>1 生徒の社会力を育成することを念頭に入れた、生徒指導を実践させるため、他者を思いやる心と対話をとおして物事を解決していく姿勢を養う。</p> <p>2 「学びの場」にふさわしい空間を築く。</p> <p>3 いじめをしない・させない・許さない学校づくりをする。</p> | <p>①年度当初に「社会力」の重要性、学習することの意義を教職員・生徒に説明するとともに、ホームページを通じて広く保護者や地域へ周知する。(再掲) また、生徒同士・生徒と教職員間の語り合いを重視した指導を行う。</p> <p>②登校時の挨拶や声掛け、授業規律の確立及び教室環境整備を敢行する。</p> <p>③いじめの早期発見・早期対応のために、いじめ防止アンケートを実施するとともに、教育相談に係る研修会や会議を定期的に実施する。</p> | <p>①「社会力」の周知状況。(再掲) 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>②学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>③いじめ防止アンケートの結果。 <u>教育相談に係る研修会や会議の開催状況。</u> 学校評価アンケートの回答内容。</p> | <p>①「社会力」という言葉は広く認知されている。その育成状況は2・3年生の生徒で約7割が否定的な感想を持っている。保護者においても2年で3割、3年で4割が否定的である。</p> <p>②多くの教員が登校時の挨拶等の活動に自主的に取り組んでいる。その一方で、身だしなみやルールに関する指導が「職員の共通理解に基づいてる」という設問に対しては約6割が否定的である。校舎の設備に関しては、現状でも、雨漏りやトイレ繕等に関しては、予算の範囲内で修繕はしているが、生徒からの否定的な意見が多かった(トイレや校舎の汚れ)。</p> <p>③いじめ防止アンケートを計画どおり実施した。重大な事実は認められなかった。生徒からの相談要請にも適切に対応することができた。 <u>教育相談に係る研修会としては、6月にネット依存に係る講演会(教員向け)、7月に性に関する講演会(生徒向け)を開催した。また、教育相談会議を定期的に開催し、綿密に情報交換を行っている。</u></p> | <p>①生徒が「社会力」の意味を十分に理解していない可能性がある。適切な時期に具体例等を示しながら、生徒が本意を理解できるよう工夫する。</p> <p>②生活指導委員会と学年担当職員の連携を緊密にししながら、授業規律の確立に向けた職員の共通理解を図る。 施設面に関してはクラス担任を中心として、清掃活動の一層の徹底を図る。破損箇所等については、事務室と連携し、早急に対応するよう、促す。雨漏りに関しては、屋上の防水工事を実施することで対応する。</p> <p>③いじめ防止アンケートの実施時期以外にも担任を中心として、相談体制を整える。生徒に対して、教育相談担当教員の周知を更に図る。また、教育相談活動をより円滑に進めるために、組織の見直しをする。</p> | <p>① 「社会力」の概念には共感できる。「社会力」を備えた生徒を育成して欲しい。</p> <p>② <u>登下校中や本日の授業見学中、こちらから挨拶をすると生徒も挨拶を返す。</u>しかし、本来であれば生徒から挨拶をしてほしい。これも一つの「社会力」ではないか。 施設に関しては、改善を強く要望したい。トイレ、壁の色、空調等、学習環境としては非常に良くない。</p> <p>③ 特になし。</p> | <p>① 特に2・3年次生が「社会力」という言葉の意味を誤解している可能性がある。具体的な例を示すことで「社会力」を正しく理解させ、生徒指導につなげていく。</p> <p>② 挨拶に関しては、同感である。<u>服装指導も含め、教員間で共通意識をもって、生活指導委員会を中心に改善に取り組む。</u> 施設に関しては、学校関係者からの貴重な意見を基に改善に向けて取組む。</p> <p>③ 引き続き、<u>いじめアンケート等の実施後は組織的に早急に適切な対応を続ける。</u></p> |
| キャリア教育 | <p>1 生徒各自の将来像を明確にし、進路意識を向上させ、進路希望の実現に向けた指導力を強化する。</p> <p>2 個別の進路志望に応じた指導を行う。</p> | <p>①総合的な学習の時間を有効活用し、<u>生徒の将来像を見据えた履修指導、外部講師による講演会や進路ガイダンスを実施する。</u></p> <p>②担任による個人面談や、進路指導部員による個別キャリアガイダンスなど行い、意識付けの機会を設けるとともに、長期休業中等を利用した補講等を行う。</p> | <p>①履修指導や進路説明会等の開催状況。 生徒の進路希望調査の実施状況。 学校評価アンケートの回答内容</p> <p>②個人面談等の実施状況。 補講の実施状況。 学校評価アンケートの回答内容</p> | <p>①履修指導や進路説明会等は計画どおり実施できた。但し、生徒のアンケート結果によると、2年次で4割、3年次で5割弱が進路指導に対して否定的な感想を持っている。保護者においても4割前後が否定的である。</p> <p>②7月と12月に面談期間を設定し、実施した。夏季休業中に国語、数学、地歴・公民、英語を中心に20講座の補講を開講した。その他、個別の学習支援については、長期休業中も含め、随時行った。</p> | <p>①進路指導部が<u>2020年度の大学入試改革を視野に入れた入試に関する情報収集のための具体的な取り組みを進める。また、全学年に対して、積極的な情報提供をするとともに、eポートフォリオへの対応を早急に始める。</u>一方で「学びの基礎診断」の受験を見据えた進路指導を推進する。 進路相談については、<u>1・2年次で、履修指導時に、進路希望や将来の目標等を踏まえた指導を行う。</u> <u>3年次においては、模試の結果等を活用して、客観的データを参考に志望校選び等ができるよう、体制を整備する。</u> また、本校の選択科目の複雑な仕組みを理解するためにも、生徒だけでなく、<u>保護者にも説明会等の機会を作る</u>ことを検討する。</p> <p>②長期休業中における補講についても、講座数、日数共に前年度を上回るよう進路指導部に働きかける。また、その実施状況を周知する効果的な方法(HP等の活用)を検討する。</p> | <p>① 生徒が「将来の目標」を見つげられるように、教員は生徒に働きかけながら履修指導をして欲しい。 <u>キャリア教育と関連性が高い履修指導が本校の場合、とても複雑である。生徒も保護者に相談したくても保護者が理解していないと助言ができない。履修指導に関する保護者向けの説明会が必要なのではないか。</u></p> <p>② 補講等、進路指導に関する学校の取組みについて、HP等をとおしてもっと保護者にアピールしても良いのではないかと。</p> | <p>① <u>生徒に履修指導をする際は、各自の将来について考える機会としながら、選択科目を考えさせる。</u> <u>また、保護者向けの履修説明会の実施に向けて検討する。</u></p> <p>② 進路指導部等、各分掌HPを活用し、保護者への理解を進める。</p> |

| | 重点目標 | 具体的方策 (具体的な取組, 手立て) | 評価項目・指標 (評価方法・評価基準) | 自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析) | 改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向) | 学校関係者評価の結果 (開かれた学校づくり委員会からの意見) | 学校評価の まとめ |
|----------------------|---|--|---|--|--|---|---|
| 特色 ある 教育 活動 | <p>1 文部科学省『実践研究協力校』、千葉県『英語教育拠点校』の事業をとおして英語指導力向上を図る。</p> <p>2 国際交流活動を組織的にを行い、生徒の国際感覚を育む国際理解教育を一層推進する。</p> <p>3 ユネスコスクール・ESD部会の活動をとおして、持続発展教育を推進する。</p> | <p>①『実践研究協力校』及び『英語教育拠点校』事業においては、文科省担当者に指導助言者を依頼し、本校で2回の研究協議会を行う。県内の高校・中学校・小学校にも参加を呼び掛け、全県から50人ほどの出席者を募る。</p> <p>②オーストラリアとアメリカへの短期留学を実施する。 2年次生の台湾への海外修学旅行で現地高校との交流を行う。 オーストラリアの交流校や、各種海外からの訪問団や長期留学生等の受け入れを適宜行う。 講演会等をとおして、国際交流活動に対する視野を広げる。</p> <p>③ユネスコスクール・ESD部会の活動に参加する。</p> | <p>①研究協議会に関するアンケート結果の検証、参加者数の状況。 英検や模試等の外部試験の結果。 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>②短期留学の実施状況。 海外修学旅行の実施状況。 海外訪問団や長期留学生の受け入れ状況。 講演会等の実施状況。 学校評価アンケートの回答内容。</p> <p>③ユネスコスクール・ESD部会に関する行事への参加状況。</p> | <p>①英語の研究協議会を2回開催し、延べ55名の他校からの参加者と意見交換することができた。 英検 IBA においては1年生でほぼ全員が準2級以上に相当する力があるとの結果を得たが、3年生の模試等の成績は全国平均を下回った。学校評価アンケートでも英語の授業に対する要望が多く確認された。</p> <p>②短期留学への参加を多くの生徒が希望し、選抜された生徒の意識も高い。海外修学旅行も無事終了し、5月には台湾の高校生22名の受入も行った。今年度も長期留学生、中期留学生を1名ずつ受け入れ、本校生徒と有意義な交流を進めている。 国際理解教育に関する講演会も各学年で計3回実施することができた。 これらの国際交流活動に対しては、学校評価アンケートにおいて生徒、保護者共に高い評価を得ている。</p> <p>③ESD部会の活動に対し、生徒が積極的に取組んでいる。夏の交流会に参加し、今後も2つの大会に参加予定である。</p> | <p>①来年度も文部科学省の指導を受けながら、英語授業力の向上を図るとともに、英語の研究協議会を引き続き開催し、本校の英語授業実践を他校に紹介する活動を続ける。 英語の授業を一層改善し、英検や模試等の成績を向上させることで、生徒の要望に対応できる。</p> <p>②短期留学の事前研修・事後指導の内容を更に改善することで、生徒の満足度を向上させ、プログラム自体の充実を図る。海外修学旅行は、「総合的な探求の時間」等を活用することで、事前・事後指導を一層充実させる。海外からの訪問団も積極的に受け入れ、本校生徒との交流の機会を増やす。長期留学生・中期留学生制度、国際理解講演会も継続し、本校生徒が有意義な経験をし、視野を広げられる機会を設定する。</p> <p>③ESD部会やユネスコスクールの理念を広く教員に浸透させるとともに、SDG'sを意識した教科横断的な授業の実践方法等について検討する。 また、部会が企画する各活動へ生徒の参加者を募る。</p> | <p>① 英語の授業に関する生徒や保護者からの要望が多い。ALTの活用方法も含めて、千葉県の英語教育のリーダーとしての役割を果たしてほしい。</p> <p>② これからのグローバル化社会を考えると、高校生が短期留学をする、という経験は非常に貴重であり、はすばらしい取組である。参加した生徒の経験をより多くの生徒に還元して欲しい。その他の国際理解教育も一層推進して欲しい。</p> <p>③ 特になし</p> | <p>① 英語の授業に関しては、本校の実績を踏まえながら、より多くの人に理解と貢献ができるよう、授業改善をしていく。</p> <p>② 国際的な視野を兼ね備えた生徒をより多く育てるために、あらゆる機会を活用する。</p> <p>③ SDGsを意識した教科横断的な授業の実践に向けて検討を進める。</p> |